

大林組

グリーン水素鉄道で現場へ

CO₂ 排出を8割以上削減

大林組は、大分県九重町で製造したグリーン水素を神戸市の建設現場に鉄道で輸送することにより、従来のトラック輸送に比べて、8割以上のCO₂排出量の削減を達成した。輸送に協力したJR貨物によると、鉄道による水素輸

送は国内初の取り組み。大林組は長期ビジョン「Obayashi Sustainability Vision 2050」で掲げる脱炭素の実現に向け、建設現場でのCO₂排出量削減だけでなく、資機材輸送時などを含め

町から神戸市に所在する「岩谷産業研修施設新築工事」の建設現場までの輸送経路の大半をトラックから鉄道に切り替えることによって、片道1回の輸送にかかるCO₂排出量を0・347トから0・062トに82%削減した。

たサプライチエーン全体でのCO₂排出量削減を推進する。今回、JR貨物と全国通運（東京都中央区、永田浩一社長）、江藤産業（大分市、近藤寛社長）の協力を得て、グリーン水素を製造している九重

鉄道コンテナに搭載されたカードル



料電池による電力供給を行っている。その際、九重町で製造しているグリーン水素は月1回程度、トラックで輸送していたが、長距離輸送時のCO₂排出量を削減する輸送手段を検討する必要があったため、環境負荷の小さい鉄道などに輸送手段を転換する「モーダルシフト」を採用した。